

# ヨモギ茎葉栽培における雑草防除方法

## ～穴あきマルチ栽培による除草効果～

ヨモギ茎葉栽培における雑草防除方法を検討しました。穴あきマルチを使うことで、雑草量が無処理と比較して約7割減少し、除草作業にかかる負担を軽減することができます。

### 1. 背景と目的

‘カズサキヨモギ’ (*Artemisia princeps* Pamp. 以下、ヨモギ) の茎葉は茶や粉末などの加工品に使われます。大和高原地域では2021年から栽培が始まっています。

茎葉を収穫する際、他の雑草の混入を防ぐために定期的な除草作業が必要ですが、多大な労力がかかります。そこで省力的な雑草防除方法を検討しました。

### 2. 研究成果の概要

試験は大和野菜研究センター（宇陀市）露地ほ場で行いました。畝表面に切わらを被覆した切わら区、畝表面をバーナーで熱処理したバーナー区、株間15cm、4条並列の穴あき黒マルチ（孔径8cm）を展張したマルチ区および無処理区を設けました。ヨモギ茎葉は、各試験区において4月、6月、7月、9月の4回にわたって収量調査を行うとともに雑草量と除草時間を調査しました。

その結果、切わら区は無処理区と同等の雑草量であり、雑草防除効果は確認できませんでした（表）。

表 各試験区における雑草量と除草時間

試験区	雑草量 (g/m <sup>2</sup> )	除草時間 (分・人/m <sup>2</sup> )
無処理	546	13.5
切わら	543	12.5
バーナー	428	10.1
マルチ	152	4.0

また、バーナー区では、3月中旬に行った熱処理により、6月までは雑草の発生を抑制しましたが、7月以降になると、雑草量は増加し、効果は持続しませんでした。

マルチ区では雑草量が最も少なく、除草時間が短くなりました。しかし、他の試験区と比較して、茎葉収量は約3割減少しました（図）。

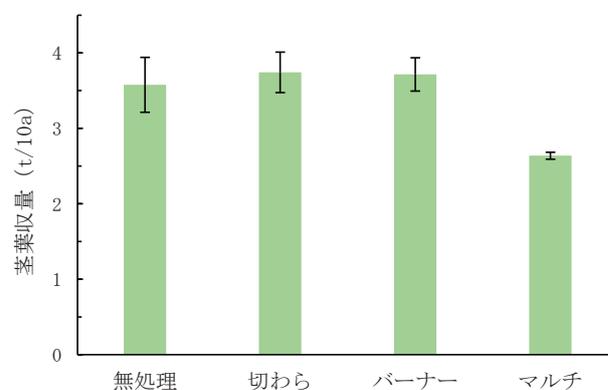


図 各試験区における茎葉収量（計4回）  
縦棒は標準誤差を示す（n=3）

穴あきマルチを展張したことで、単位面積あたりのヨモギの茎数が少なくなったことが原因と考えられます。このように収量は減少しましたが、除草作業の負担を大きく軽減できました。

### 3. 実用化に向けた対応

穴あきマルチの利用は、収量の確保と作業負担の軽減とのバランスを考慮する必要があります。今後は、マルチの穴の数（開孔率）を変えることで、除草作業にかかる負担を軽減しつつ、収量の減少を抑えられるかを検討します。

（大和野菜研究センター 上田悠平）